令和4年度 第4回豊田市上下水道事業審議会 会議録

【日時】 令和4年8月29日（月） 午後1時30分～3時50分

【場所】 豊田市役所 南51会議室

- 【次第】
- 1 会長あいさつ
 - 2 議事
 - (1) 料金改定案について
 - (2) 給水区域の見直しについて
 - (3) 水道工事分担金の見直しについて
 - 3 事業管理者あいさつ

【出席者】 <委員>

竹内	信仁（名古屋大学名誉教授）	※会長
神頭	広好（愛知大学経営学部教授）	
松本	嘉孝（豊田工業高等専門学校准教授）	
藤嶋	伸一郎（豊田商工会議所；豊田信用金庫 理事長）	
杉本	敦子（豊田商工会議所女性会会長）	
吉橋	一典（豊田市区長会理事）	
松原	秀敏（豊田市小中学校長会）	
片桐	正博（豊田森林組合代表理事組合長）	
石橋	博文（豊田加茂薬剤師会監事）	
野々山	輝美（あいち豊田農業協同組合女性部長）	
増田	比呂子（足助地域会議委員）	
安藤	ひろみ（下山地域会議委員）	
大島	年春（稲武地域会議会長）	
城金	茂樹（公募委員）	
青木	厚子（公募委員）	

<事務局>

前田	雄治（豊田市事業管理者）
成瀬	光明（上下水道局局長）
田中	統（上下水道局副局長）
下川	涼太郎（上下水道局総務課長）
澤田	亜紀（上下水道局経営管理課長）
岡田	政彦（上下水道局企画課長）
山本	直彦（上下水道局料金課長）
澤田	善之（上下水道局水道整備課長）
河合	保幸（上下水道局水道維持課長）
岩田	裕二（上下水道局上水運用センター所長）

新岩 康正（上下水道局企画課副課長）
鷺野 正国（上下水道局水道整備課担当長）
古川 真一（上下水道局経営管理課副課長）
播磨 有希子（上下水道局経営管理課担当長）
岡野 久（上下水道局経営管理課主査）
竹内 晨（上下水道局経営管理課主査）
宮瀬 さゆり（上下水道局経営管理課主事）

【傍聴者】 なし

【議事等の摘要】

1 会長あいさつ

- ・本日は、大変お忙しい中、御出席をいただきありがとうございます。
- ・今回は、料金改定案における具体的な料金の詳細を協議します。
- ・皆様の活発な御発言をいただきながら、円滑な議事進行に御協力をお願いします。

2 議事

（1）料金改定案について

○事務局

- ・資料に基づいて説明

○A委員

- ・県内で最高従量料金単価が高い状況で、パターンⅡの率による従量料金設定では、さらに上がることとなる。特定の団体への負担をできるだけ抑えたパターンⅠのように、口径別の負担を維持する料金設定に賛成する。

○事務局

- ・お示した2つのパターン以外の案も検討したが、現行の料金負担のあり方や、他市の状況も踏まえつつ、口径や水量区画による負担の差が広がらない料金体系が望ましいと考えた。

○B委員

- ・最高従量単価で料金算定されている件数はどれぐらいか。

○事務局

- ・年度ごとに差はあるが、1,000件から2,000件程度である。

○B委員

- ・今回の料金改定では、内部留保資金はどの程度確保されるのか。

○事務局

- ・令和4年度末の内部留保資金は約104億円を見込んでおり、料金改定を実施した結果、令和8年度末の内部留保資金は約91億円を見込んでいる。
- ・現時点の財政収支見込みでは、令和9年度に再度値上げが必要と見込んでおり、令和9年度に、令和4年度比16.3%の値上げを実施した場合、令和12年度末の内部留保資金は約60億円が確保される見込みである。

○C委員

- ・令和9年度の再値上げでは、令和4年度比16.3%の値上げが必要とのことだが、その値上げを平準化するため、今回の値上げ幅をいくらか増やすこともできると思うがどうか。

○事務局

- ・物価の高騰、社会情勢の動向が不透明であることから、今回は料金算定期間内で安定的に経営できる値上げとして急激な負担増を避けるとともに、値上げ後の使用水量の動向や経費削減の取組等も踏まえて再度、料金体系を見直す2段階の改定案とした。

○C委員

- ・水道料金の請求は2か月単位であるため、料金値上げの周知においては、2か月単位でどれぐらいの単価改定になっているかを示すようお願いする。

○D委員

- ・基本料金割合が高まった理由として、将来の投資が増えることを挙げているが、その投資見込みは水道事業を継続するための施設等にかかる費用を積み上げて算定したと考えてよいか。

○事務局

- ・必要な施設数や人口推計等を加味して、必要投資額を積み上げたものである。

○E委員

- ・資料の9ページにある、新料金改定案の理由には、水道事業の基盤強化ということを位置づけるべきと考える。

○事務局

- ・答申の作成において反映する。

○議長

- ・皆さんから、答申作成における意見やその他水道事業に関する意見を伺いたい。

○F委員

- ・地理的に高低差のある地区だからか、建物の2階になかなか水が回っていかないため、ポンプアップして口径13ミリを使用している世帯がいくつかある。水使用のために電気料金がさらにかかっている現状を承知いただきたい。

○事務局

- ・状況を確認する。

○G委員

- ・料金改定の方については賛成であるが、いろいろなものの値段が上がっており、家計は苦しい状況である。料金改定の周知においては、値上げやむなしと市民が理解できるような周知に努めてほしい。
- ・経営統合により負担がかかっていることはわかっているが、旧簡易水道地区に住んでいる者として地域の格差に配慮してほしい。

○A委員

- ・少子化の影響でプール施設が減っていることに加え、熱中症対策で学校のプールが閉鎖されていると聞いている。水使用量はかなり減っているのではないか、これが

らも減っていくのではと想像できる。再値上げの検討では、このことも考慮してほしい。

- ・また、料金の値上げは、市民も敏感になっているので、周知の徹底をお願いする。値上げのときだけでなく、継続した情報提供が理想的だと考える。

○B委員

- ・答申では、これまでの協議にあったように経費削減策、経営努力、合理化努力といったことをさらに周知しないと、市民の理解がなかなか得られにくいし、答申にも経費削減の努力が必要である旨を記載してほしい。

○H委員

- ・安心安全の水を常に供給するため、老朽化に伴ういろいろな設備の更新、また最近よくある災害に伴う水道水の復旧対応などを鑑みると、値上げは致し方ないと思う。

○I委員

- ・水道料金と同じくインフラ関係である電気料金は、この10月からさらに値上がりし、その影響で赤字に転落する企業が見込まれる中、今回の水道料金の改定案は、限界の調整がされたと感じており妥当だと考える。
- ・水道事業の目的は水道の安定確保であるので、今回の値上げは不可欠であると思う。

○J委員

- ・水を多く使っている人の水道料金は安くし、支払能力のある企業に高い料金を払ってもらおうというような考え方もあると思うが、産業構造というか、産業間の横のつながり、社会の状況というのはいろいろな変化が考えられるため、今回は短期的な経営の安定確保を目指す料金改定であり、一番いいところに落ちついたと考える。

○D委員

- ・令和4年3月に改定した水道ビジョンにある、基盤強化、老朽化対策、耐震整備ということは喫緊の課題で、取り組まなければいけないという点をベースに料金改定の議論ができたとして理解している。今後、市民の皆さんにもこの水道ビジョンの位置づけというものをしっかりと示していく必要があると考える。
- ・水を作っているのは誰かという点、上下水道局の職員であり技術者であり、技術の継承も含め、今後の課題だと思う。

○C委員

- ・電気やガスの料金は民営ゆえに値上げするといえばそのまま通っていくわけだが、水道料金となると、こういった審議会や議会を経て改定されるという大変な手続きが必要となる。今回の値上げの4年後、再値上げに向けて水道事業の民営化など、抜本的な見直しも含めた検討もしていかなければならないと思う。

○K委員

- ・生きていくために欠かせない水、安全安心な水道水を届けてもらうためには、老朽化更新や水道の基盤強化が促進されることが大事だと改めて認識し、料金改定は必要かなと思う。いろいろなものが値上がりしている現状で、市民の皆さんが料金改定に少しでも納得してもらえるよう、積極的な広報や内容の見える化が必要であると思う。

○E委員

- ・ 昨年はプールの授業、水泳の授業ができなかったが、今年度はプールの授業ができた。水泳の授業があることで、6、7月の学校の雰囲気も明るく、子供たちの笑顔にあふれ、プールの授業ができる、水があることは大切なことだと改めて実感した。
- ・ 市内の小中学生が学んでいるSDGsの取組にあわせて、水の大切さも広報できるような機会ができればと思う。
- ・ パターンIの案に賛成する。

○L委員

- ・ パターンIの案に賛成する。市民の皆さんに命を繋ぐ水を安定的に安全に供給するためにやむを得ない選択だと思う。
- ・ また、水道事業は公共事業として、行政による安心安全な水の供給を続けていきたい。世界的に見ても、あるいは国内で見ても民営化を進め、あと戻りしている事例も結構あるので、安易に民営化への議論に取り組んで欲しくない。公共事業として安全安心な水を届けてほしい、その思いでパターンIの案に賛成する。

○M委員

- ・ 審議会での議論を通じて、今回の値上げについて理解することができた。
- ・ これまで市町村合併や、各簡易水道の統合が順次あったなかで、25年間値上げしなかったのは何か理由があるのか、前回の審議会ではどのような結論だったのかという点が疑問だった。

○事務局

- ・ 前回の審議会にあたる平成30年度の審議会において、料金値上げが必要ではあるが、水道ストックマネジメント計画という老朽化対策の計画を策定したうえで水道料金のあり方を検討するとの結論が出され、附帯意見として答申された。

(2) 給水区域の見直しについて

○事務局

- ・ 資料に基づいて説明

○L委員

- ・ 資料の6ページの見直し対象としている区域がわかりにくいので、どの自治区が見直しの対象となるのか、自治区名で示していただきたい。
- ・ 市街化調整区域であっても宅地開発ができる、いわゆる18号の特例で、家が建っているところに影響はないのか。給水区域の見直しにより、水が来ないところでは新たなまちづくりができない、人が住めないということになっていくため、従前の水道管から100mまでの間でしか家は建たないということを進めてよいのか。
- ・ また、豊田市のまちづくりに影響を及ぼす給水区域の見直しは、当審議会だけで議論せずに、地域会議という制度を活用するなど、もっと広い意見を吸い上げる場で議論していただきたい。パブリックコメントの実施だけでは意見を吸い上げきれないので、給水エリアの見直しをどうとらえるか、やむを得ないと思ってくれるような議論ができる場を提供していただきたい。

○事務局

- ・ 給水区域については、概ね100mという一つの基準を設けて見直しを考えている。

- ・安心安全な水質を維持した水を効率よく提供するとなると、これまでの給水区域のように大きく色を塗るのは少し問題があるのではないかという視点で見直すこととした。
- ・今回の見直しにかかる意見を聴取する方法の一つとして、パブリックコメントを実施したいと考えている。
- ・また、豊田市開発審査会基準第18号にかかる地区は給水区域に入れる想定である。

○L委員

- ・そのことは何か書面になっているか。

○事務局

- ・検討段階の成果を途中報告であり、まだ最終の形ではないので、書面として示すものはない。また、現在給水を受けている方には何ら影響はないことを御理解いただきたい。
- ・中山間地域で地域の環境保全、環境の住環境の確保を目的とする特例である豊田市開発審査会基準第18号に、ある一定の条件をクリアすると家が建てられるという制度があり、基準とこの給水区域に不一致がないよう担当部局と調整している。

○L委員

- ・いわゆる第18号の特例で住人が増えている地区もあり、そういった人たちのために基盤を提供できなくなってしまうことにならないよう、将来の豊田市民のためにどうあるべきかを考えていく必要がある。

(3) 水道工事分担金の見直しについて

○事務局

- ・資料に基づいて説明

○B委員

- ・資料16ページにある承認工事で施工した管は誰の財産となるのか。

○事務局

- ・承認工事後に市が検査を行い、寄附採納により市の財産となる。

○C委員

- ・見直し後の制度はいつから運用する予定か。

○事務局

- ・周知期間を見込み、令和5年10月の運用を予定している。

3 事業管理者あいさつ

- ・活発な議論を頂戴しましてありがとうございます。
- ・この7、8月に10件ほどの漏水事案などが発生しており、そのうち数件は、雷で停電した。幸いにして大きな影響を及ぼさず済んでいますが、老朽化が進んでいる表れと考えています。水道基盤の強化に向けた料金改定については、水使用者の理解を得るための丁寧な広報についての御意見をいただきましたので、料金改定の決定まで、それから決めた後と継続した周知について取り組んでまいります。
- ・給水区域、水道工事分担金の見直しについては、将来の負担が大きくなればその料

金改定幅も大きくなるということなので、できるだけリスクを減らすということですが、かかる経費を適正にするという視点で見直しています。いただいた意見を参考にしつつ、将来の水道料金改定にできるだけ影響しないような見直しに取り組んでいると御理解いただきたいと思います。本日はどうもありがとうございました。

午後3時50分終了